

# 幼児教育センターだより

平成28年 春号

大田区教育委員会 幼児教育センター (5744)1618



春の日差しが心地よい季節になりました。暖かな春の陽気に包まれてワクワクドキドキする新年度のスタートを迎えた子供たち。入園・進級した喜びにあふれている子供たちの目はキラキラと輝いています。輝く瞳は、きっとこれから広がっていく新しい世界をまっすぐに見つめているのでしょうか。

今号では、子供の世界が広がる【読み聞かせ】について考えてみました。

## 【読み聞かせ】の大切さ

乳幼児期からテレビやスマートフォン、ゲームなどの刺激の強い音や映像に触れ、一方的に影響を受けることの多い現代。子供が聞き分けなく騒いだり、ぐずって泣いたりした時に、テレビやスマートフォンを見せていれば静かにしてくれて、周りにも迷惑をかけずにすむということもあるでしょう。しかし、子供がテレビやスマートフォンを長時間見続けると、乳幼児期に必要な体験を積み重ねる機会が奪われてしまい、語彙力が乏しい、コミュニケーション力が養われないなどの問題を引き起こす可能性も十分に考えられます。

様々な心理学的研究において、「読み聞かせは子供の想像力を育み、言語能力を高め、人間関係を豊かにするものである」といった報告がなされています。乳幼児期には「耳から聞く」ことが大切であり、耳から入ってくる言葉は情緒を刺激し、想像力をかきたてます。親子で絵本の読み聞かせを楽しむことは、子供の興味・関心、情緒的発達、想像力、言語能力を刺激するとともに、子供の気持ちを安心・安定に導くことになるでしょう。親子で絵本の世界を楽しみながら、家庭での読み聞かせの時間を大切にしたいものです。

## 【読み聞かせ】の道しるべ

乳幼児期から親子で読み聞かせを楽しむには、まずは大人が絵本の世界を楽しむことが重要です。読み間違えたり、脱線したりすることがあっても大丈夫。子供をしっかりとひざの上に座らせ、子供の体温、鼓動、絵本から受けた感動、驚き、息をのむ瞬間を共有しながら、親子で一緒に絵本の世界を味わいましょう。

### おおむね1歳児まで

この時期は、子供が絵の形や多彩な色、絵本の感触を楽しむ、そして絵本を読んでくれる大人の声を楽しむ、といったことが大事です。子供の言葉にならない表現を大人が優しく言葉に置き換えながら、子供との関わりを楽しみましょう。周りから語りかけられることによって、子供は安心し、大人と心を響き合わせることを楽しめるでしょう。



### おおむね1歳児～2歳児

動き回るようになった子供は、絵本よりも他のものが気になってしまい、じっと聞いていられない時もあります。絵本を見ているうちに子供が自分でページをめくりたくなくて、ビリビリと破ってしまうこともあるでしょう。この時期は子供が何に興味をもっているのかを理解して子どもに寄り添う姿勢が大切です。

また、子供に好き嫌いが表れ、同じページを何度も読んで欲しい姿が出てきたり、「ぶんぶんぶん」「ころころころ」などの繰り返しの言葉をおもしろがったりします。子供の表情や反応を確かめながら読み聞かせをすることで親子のコミュニケーションが深まるとともに、子供の表現力も豊かになっていきます。

日々の生活の中に読み聞かせの時間を取り入れることで、子供が本と触れ合う習慣をつくっていきましょう。

### おおむね3～4歳児

興味・関心や時期によって、子供の好む絵本は変わっていきます。大人がテンポよく読み進めることで子供が絵本に集中しやすい時もあれば、ゆっくり読み進めた方が聞き入る時もあるなど、大人は子供の様子に合わせて絵本に対する接し方を変えていく必要があります。そして、子供が気に入った絵本は何度でも読んであげたいですね。子供は物語の先が見えている方が安心して耳を傾けることができるため、何度聞いても飽きることなく楽しめます。また、子供がどんな本を喜ぶのか、子供の好みを考慮しつつ、あまり偏り過ぎずにいろいろなタイプの本を提供してあげることも大切にしたいものです。

### おおむね5～6歳児

絵本の中では、奇想天外なことが起こります。幼くて弱いと思われている主人公が危険な目に遭った時、勇敢にピンチを切り抜ける、主人公に救いの手を差し伸べてくれる存在が現れるなどの物語を通して、子供は主人公に自分を重ねながら成功体験や達成感を味わっています。物語の内容をイメージしながらどんどん発想を展開していく力は、友達や大人の思いを想像して把握し、自分の考えを言葉で豊かに表現できる力につながっていきます。この力はやがて、小学校以降の学びや、社会性を身に付けることなどに結びついていきます。



## 絵本の選び方

いわゆる「いい絵本」とは、子供が自分で読んだり、大人に読んでもらったりした時に、絵本の世界に自然に入り込むことができ、十分に楽しめる絵本、読み終えた後に深い感動を残し、子供の心を豊かに育ててくれる絵本であるといえます。もちろん、子供一人一人の性格や環境によって、「いい絵本」は違ってくることもありますし、子供が好む絵本と大人が子供に読んで欲しいと願う絵本にギャップが生まれる場合もあります。そのため、親子で楽しく絵本選びができるように工夫することも大切です。近所の図書館をどんどん利用して、子供の喜ぶ絵本を自由に試してみましょう。多くの絵本を知ることで、その子に合った絵本を選ぶことができます。そして、子供は一冊の絵本を読むたびに何度も何度も引き込まれ、自分自身の中にその世界観を築くことができるでしょう。

### 【読み聞かせ】は、親子をつなぐ心の架け橋

子供は、大人に絵本を読んでもらうことを自分に向けられる愛情表現であると実感します。家庭で絵本の読み聞かせを楽しむ中で、子供は様々な心を動かし、感受性豊かに成長していくのです。こうして子供は絵本の中でのびのびと心を解放したり、安心感・安定感を抱いたりしながら物語の世界を広げていきます。子供と大人が、絵本のもつ世界観や、そこから生まれる感情や互いの温もりを共有することは、子供だけでなく大人にも豊かな時間と明日への活力をもたらしてくれることでしょう。

乳幼児期から信頼できる身近な大人に絵本を読んでもらう経験を積み重ねることは、生涯を通して読書に親しむ基盤を培います。そして、新しい見方・感じ方に気付き、イメージや考えを他者に発信する行動力にもつながっていくでしょう。心情・意欲など心の育ちは見えにくいものですが、絵本のある子育てを通して、かけがえない時間を共に過ごす家族と心を響き合わせながら、親子の絆や生きる力を着実に育てていきたいですね。

**幼児教育センター主催：家庭教育支援講座【キラキラ輝け、アートの世界！親子で楽しく表現遊び】**

**（日時）…平成28年8月4日（木曜日）10:00～11:30 （場所）…池上会館 集会室**

☆様々な素材や絵具などを使って、4～5歳児向けの‘アートの世界’を親子で体験したり、子供のイメージや創造する力の大切さについて考えたりします。☆7月11日号の区報で参加募集をいたします。